外来担当医表

土曜日は休診です

※2013年1月1日現在の内容です。

※担当医は予告なく変更になることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	中島	松本	村上	藤永	松本
	(非常勤)	野本	田仲	田仲	中島
			城野		
午後 予約	佐藤	藤永	城野	村上	佐藤
	(非常勤)		百崎	牛島	

病院理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う
地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

- 地域の様々な資源との連携の強化を目指します
  —医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—
- 良質で安全な医療の提供を目指します
  —相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—
- 専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します
  —新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

患者の権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
   また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。

医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142　熊本市北区植木町鐙田1025
TEL：096-272-7211　FAX：096-273-2355
http://www.koyodai.or.jp/

当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2010年にVer.6.0で再認定されています。

当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとはあと評価（認定3/Stage-1）の第三者評価認定を受けています。

●日本精神神経学会専門医研修指定病院　●日本精神科病院協会認定専門医研修病院

発行／ 向陽台病院広報委員会　発行日／2013年1月1日

こもれび

今号の表紙：デイケア・病棟の患者さんによる合同作品　タイトル「熊本城」

新年のごあいさつ
医療法人横田会 理事長
横田 周三

医療法人横田会 向陽台病院 院長
中島 央

病気のおはなし
摂食障害

病棟紹介
児童思春期ユニット拡大

こもれびリレーエッセイ
第8回・大岩 孝行

向陽台病院の活動紹介
医療安全の日

こもれびぷらざ
栄養科が新しくなりました

KOMOREBI
2013.Winter
vol.36

医療法人横田会向陽台病院は今年9月、創立50周年を迎えます。

新年のごあいさつ

医療法人横田会　理事長
横田 周三

あけましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いします。

昨年の当法人の新しい取り組みは、厚労省のモデル事業としてアウトリーチを始めたことです。戸惑いもたくさんありますが、実績を一つひとつ積んでいきたいと思っています。

病院においては、新しく中島院長を迎えて、救急・急性期精神科医療への舵取りを大きく切った年でもありました。また福祉事業においては、就労事業など外部への開拓と挑戦をし、いくつかの企業の方々には大変お世話になった年でした。

さて、向陽台病院は今年の9月15日で創立50周年を迎えます。この50年の間にさまざまな出逢いや別れを経験しながら、拘り続けてきたものと仕方なく諦めてきたものなどがたくさんあったであろうと想像します。そしてその期間には多くの人々が関与していただいて作られてきた歴史だと思います。

人が色々な面で動く時には、集団力動が関与してきていると思います。その力動は、植木町などの小さな集団から、日本や世界といった大きな集団まで、相互に影響し合っているものだと考えます。どうしても、小さな眼前の課題や日常の仕事に追われて、周囲との関係が見えなくなったり、支え・支えられていることを忘れがちになったりします。慣れも必要ですが、必要以上の馴れにならないように、そして独りよがりになり過ぎないように意識して、次の時代へ進んでいけたらと思っています。

50周年の今年の、この時に立ち会ってくださる方、あるいは今まで何らかの形で関与していただいた方々へ、御礼を申し上げ、新年の挨拶に代えさせていただきます。

ここまで育てていただき、ありがとうございました。そして今後ともよろしくお願いいたします。

医療法人横田会 向陽台病院　院長
中島 央

旧年中は、たいへんお世話になりました。

本年も向陽台病院をお引き立てくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

私も昨年院長に就任いたしまして、臨床面では久しぶりの病院業務にもかかわらず、児童思春期を中心に、たくさんの診療を経験させていただき、病院運営の面でも救急病棟の立ち上げなど、これもまためまぐるしい変化を経験いたしました。結果、幸か不幸か振り返るのもままならないような慌ただしさの中、新年を迎えることになりました。

今年は腰をすえてじっくりと、と言っている暇もなく、救急体制の充実や、児童思春期部門の拡充、病院全体の病床の再構築など、課題が山積みです。本当に暇のない毎日で、「暇、ヒマ、ひまがほしい！」と言っては、また仕事にとりかかっています。

さて、このような状況にあっても、なぜか元来仕事ぎらいなはずの私自身は、けっこう楽しい日々を送れています。それも全てはスタッフの皆さんや医局の先生方の心根のよさに支えられている気がしています。病院の仕事の要求は決して低いものではありませんが、それを眉間にしわを寄せることなく乗り切っている皆さんに会うことができる限り、私も出勤し続けることができる気がしています。仕事ぎらいでも…（笑）。

全ては一期一会、日々更新。これは私の臨床スタイルでもあります。そうだ。これを今年の病院のテーマにしよう！などと適当なことを考えつきました（笑）。

本年も重ね重ねよろしくお願い申し上げます。

摂食障害

執筆者：診療部　医師　城野 美佳子

摂食障害とは、読んで字のごとく、「食事を摂取することに問題がでる病気」です。大きく分類して、「神経性無食欲症（拒食症）」と「神経性大食症（過食症）」に分けられます。

摂食障害とは

食行動異常と体型の認識の歪み、拒食や月経異常を認める「**神経性無食欲症（拒食症）**」と、過食・嘔吐・下剤などによる排出行動を繰り返す「**神経性大食症（過食症）**」に分けられます。

日本では1950年代から「拒食症」が、1980年代から「過食症」が認められています。もともと欧米で多かった疾患ですが、肥満嫌悪の風潮やダイエットの流行、女性の社会進出などを背景に増加してきました。最近では、拒食症は0.2～1％、過食症は2～3％に発症すると言われ、男女比は1対10で女性がほとんどですが、男性例も認められます。診断基準を満たさないケースを含めると、よくある疾患です。

病因と発生のメカニズム

病因としては、さまざまな説がありますが、肥満蔑視の風潮、女性の社会進出、社会の飽食化などの文化社会的要因、性格、自立葛藤、認知の歪み、家族関係、偏った養育態度などの心理的要因、視床下部―下垂体系の神経内分泌的異常、脳の形態的機能的変化などの生物学的要因などが複雑に関連し合って発症すると言われています。

症状と合併症

精神症状として、やせ願望や肥満恐怖、ボディイメージの歪み、病識欠如を認め、二次的に抑うつ、不安、強迫症状、自傷行為、万引き、薬物やアルコールの乱用などの問題行動が生じ、感情障害、不安障害、アルコール・薬物依存、人格障害の合併も少なくありません。さらに、やせ願望に伴う食行動異常として拒食や過食、排出行動としての嘔吐、下剤や利尿剤の乱用などを認めます。

拒食が目立つと、低体重となり、代謝の低下、低体温、浮腫、脱水、貧血、無月経、甲状腺機能低下、肝臓機能障害、不整脈、骨粗しょう症、産毛の密生、けいれん、無気力、認知障害を引き起こします。また、排出行動が目立つと、電解質異常、唾液腺や膵臓の肥大、食道や胃のびらん、う歯、胃・食道裂孔、けいれんなどを引き起こします。これらのさまざまな身体合併症が生命を脅かすこともあり、さらには病気の持続や慢性化に関係します。

治療と経過

摂食障害の治療に特効的な治療法はなく、精神療法、行動療法、認知行動療法、自助グループ、身体療法など、患者さんの状態や医師の専門とする療法に応じて適宜選択し組み合わされます。外来通院での治療が基本ではありますが、身体や精神状況が悪化した場合には入院治療を必要とすることもあります。また、低体重に伴う身体合併症が深刻な場合には、集中的な身体的治療を必要とすることもあり、内科での治療を優先することもあります。薬物療法については、摂食障害に対しての根本的な治療薬はなく、抑うつ、不安、不眠などの二次的な症状に対して対症的に行います。

拒食症はその後、過食症に移行することも多く、過食症は過食で発症し、排出行動を生じて経過するものも多くみられます。いずれも慢性化することも多いのですが、拒食症では10年の経過で7割以上が回復するとされ、部分的に症状を示すことはあっても日常生活に支障のない程度に落ち着くこともよくみられます。ただし、上記の身体的精神的併発障害が予後に影響を及ぼすことも多くみられます。さらに低体重と死の転帰の関連が言われており、死亡率が5～20％との報告もあり、また自殺例も少なくありません。過食症では10年の経過で過半数が完全に回復し、20％が持続、他は部分症状を示すとされており、同様に併発障害が予後に影響を及ぼします。

まずは、病気について正しく知ることがとても大事です。一人で抱えこまずに、身近な人などに相談してみてください。

執筆者：看護部　看護師　芦塚 和代

児童思春期ユニット拡大（20床から24床へ）

南3病棟にある児童・思春期精神科入院医療管理料を算定する病床（以下ユニットと称する）は、24床を有し、20歳未満の患者さんを対象としています。年齢層は小学生から19歳までと幅広く、疾患も、発達障害（アスペルガー症候群・自閉症）・適応障害・強迫性障害・統合失調症・摂食障害・うつ病などさまざまです。

入院中の治療には、主治医の診察・臨床心理士による心理検査やカウンセリング、作業療法士による治療プログラムなどがあります。

治療プログラムは、成人の患者さんとの合同のプログラムに加え、週に3回、ユニットを対象としたプログラムを設けています。月・金曜日は創作活動や運動・ゲームなどを行い、水曜日はデイケアの思春期グループと合同の学習支援を行います。学習面のサポートは外部からの講師（元教師）と、スタッフ（臨床心理士・作業療法士・看護師）が担当します。授業形式ではなく、病状を考慮しながら、個人で目標を設定し、無理のないように実施しています。他にも、月に1回、薬剤師による薬剤指導、管理栄養士による栄養指導を行っています。

また、心理検査の結果や個々の患者さんの行動の傾向、知的レベルなどを考慮し、主治医をはじめ多職種で治療目標に応じた約束事やスケジュールを作成しています。言葉での説明だけでは理解が困難な方に対しては、絵で示したカードを作成したり、気持ちをうまく表現できない方に対しては、気持ちを表情で表したカードを作成して気持ちを伝える練習から始め、徐々に言葉で気持ちが伝えることができるよう援助しています。

個々の問題や治療課題を共有し、治療を円滑に進めるため、週に1回、思春期ユニットカンファレンスを行っています。そのほかにも入院時や転入時、対応が困難な患者さんに対しては時間が許す限り、さまざまな職種を交えてのカンファレンスを実施し、意見交換を行っています。

ユニットでは患者さんへの対応だけではなく、家族への支援がとても重要になってきます。さまざまな症状が出現し、入院という選択をしなくてはならない状況になったとはいえ、子どもと離れなくてはならない家族の不安や辛さは、想像以上に大きなものだと思います。家庭での問題行動に対処して、疲弊している家族もたくさんいらっしゃいます。まずは家族の不安や苦労を理解することが大切であり、安心して治療を任せてもらうよう信頼関係を築く必要があります。そのためには、電話で状態をお伝えしたり、来院時には入院生活の様子をお話しするなど、できる限り家族の方と話をする機会を作るよう心がけています。家族が心の健康を取り戻し、安定することが、子どもの安心へと繋がることを実感しています。

日常生活の場から離れ、たくさんの不安を抱え入院してこられる患者さんに、少しでも多く寄り添い、安心して治療が受けられるよう、医療者として時には親代わり・大人の代表として、今後も関わっていきたいと思います。

こもれびリレーエッセイ

● 第８回：看護部　南1病棟師長　大岩　孝行

あけましておめでとうございます。

何ともドラゴンが火を噴いたかのような暑い夏と、中国との諍いの一年が終わり、早く元の鞘に収まればいいのにと思う。そんなこんなの竜年から今年の干支は巳、蛇である。嫌われ者の代表格のような存在であるが、縁起も担がれる存在である。白蛇などは幸福を呼ぶと言われ、青大将も家を守るといわれている。日本人にとっては昔々から擬人化されるほど身近な存在であったのだろう。ハブの体の模様も紬（つむぎ）の模様に転用されたり、強精剤として蝮には悪いが生きたまま焼酎に入れられたりと可哀そうだが好かれている。

中国では蛇料理があるらしいが、縁起物らしく蛇を竜に擬えて猫を虎に例えての料理らしい。アメリカでもコブラなどが車の名前になったり、プロ球団のマスコットがガラガラ蛇である。怖いけどカッコいい。医療関係でも救急車に描かれているマークにも蛇がからみついている、確か世界共通である。生命力が強いからだろうか、これも縁起担ぎか。

さて、子どものころから、「蛇の抜け殻を財布に入れておくとお金が貯まる」と教えられてきて試したが、どうしてどうして全く貯まらない。毎月がリーマンショックである。私の財布はザルの如く、私に回ったお金は留まるを知らずやである。我が家の財務大臣も同じや、そろって歳出ばかりで国に習って国債ならぬ私債が乱発できればなんと嬉しい事か。国は国民に借財おわせても知らぬふり、我が家で借財作ろうものなら…とんでもない。まぁ、清貧とまではいかないが幸せに暮らせているだけでも満足としなければならないか。仕事ができるだけでも感謝感謝。

巳年に擬えて暑い壁でも乗り越えられるように頑張りましょう。嫌われても好かれるように今年もよろしくお願いいたします。

▼次回予告

看護部 北3病棟師長　由野島寿美子にバトンタッチ

向陽台病院の活動紹介

医療安全の日

医療管理部　医療管理部長　植村 照子

本院では、医療事故防止のため「医療安全の日」を定めて職員の安全意識の向上に取り組んでおります。昨年は、9月24日（月）の午後、病院だけでなく、福祉事業や法人本部まで含めた横田会全体で、「安全の日」を実施、総勢１２３名が参加しました。当日は、参加者を８グループに分け、防災・救急処置に関する医療器材や院内設備の保管、設置箇所等の確認のために院内を巡回するコースと、植木消防署の方の指導を受け救急蘇生法（ＡＥＤの使用、人工呼吸・心臓マッサージの全員実施）の実技講習をするコースを体験しました。それぞれ見学と実技を終了した後、アリーナに集まり、グループごとで感想を話し合いました。日ごろ目にすることのない設備や器材を知り、また、さまざまな職種で話し合う機会を得られたことが、スタッフにとって大変有意義であったようです。

今後も患者さんの安全と職員の安心安全な職場環境作りのために、取り組んでいこうと考えております。

こもれびぷらざ

向陽台病院の最新ニュースやお知らせなどをお届けします。

私たちが皆さんのお食事を作っています！

栄養科が新しくなりました

診療部　管理栄養士　宮本 愛

栄養科では、入院・デイケア通院中の患者さんの食事作りを毎日行っています。食が豊かになった昨今は、「身体に良いもの＝おいしい」とは限らず、特に病院食は、「味がうすいし、見た目が悪い、ワンパターン」という負の三大イメージをもたれてしまいがちです。そんなマイナスなイメージをもたれないよう、次の3つの目標をかかげ食事作りを行っています。

①安全でおいしい真心のこもった食事サービス
②患者さんの健康保持増進に寄与する食事提供
③季節を感じられる食事提供

当院は10～90代まで幅広い年齢の方が入院されているため、嗜好を把握する目的で年2回の食事調査を実施しています。病院食は主治医の指示のもと、患者さんの食事療法にそくした内容となっているため、ホテルやレストランのように、カロリーにとらわれず美味しさを優先した料理ばかりを提供することは難しいものです。また、ボリュームアップを図るには低カロリーな野菜を多くとりいれるため、ワンパターンと感じてしまうこともあります。そんな日々の食事に変化をつけるため、月1回以上の行事食や年5回のバイキングを実施し、バイキング時には、普段なかなかお話する機会がない栄養科の調理スタッフが各病棟・デイケアへうかがい、患者さんとふれあう機会をいただいています。

また、このほかの活動として、栄養食事指導やＮＳＴ活動(栄養サポートチーム)があります。近年、精神科病院においても、長期入院患者さんの高齢化にともなう身体合併症の管理、摂食障害による低栄養・過栄養への対応、思春期世代の栄養教育など、栄養サポートを必要とする場面が増加しています。このような栄養管理が必要な方に対し、最良の方法で栄養管理を支援し、治療効果をあげることを目的に平成21年6月よりＮＳＴ活動を開始しました。活動も4年目に突入し、多職種との連携がとれるようになっていますが、管理栄養士2名体制ではまだまだ、行き届かないところがあるのが現状です。

昨年10月に始まった厨房の改装工事も無事終了し、現在は新しい厨房での食事提供が始まっています。改装期間中、ご協力をいただいた皆さまに笑顔で「おいしい」と言っていただける食事を提供できるよう、今後も努力していきたいと思います。

新しくなった厨房。
清潔で快適な調理環境で
真心込めて作ります！

診療のごあんない

- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 特殊外来：児童思春期（発達障害）外来
- 病 床 数 ：202床
- 外来診療時間

【月～金曜日】　午前 9時40分～12時
　　午後 2時30分～4時
【土・日曜日】　休診

祝日は平常どおり診療しています

交通アクセス

産交バス		向坂バス停から徒歩3分
		投刀塚バス停から徒歩3分
車		植木ICから10分
JR		植木駅下車 → タクシーで6分

アクセスマップ

初めて受診される方へ

当院は**予約制**です。
初めての方は、**地域連携室**へお電話ください。
☎ 096-272-5250
電話受付時間
【月～金曜日】　午前９時～午後４時30分
電話の際、**①お名前 ②相談内容 ③連絡先** などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、**2時間程度**とお考えください。

動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

集計月	外来延数	新患数	1カ月ごとの入退院者数	
			入 院	退 院
2012年　9月	2,515	48	41	36
2012年 10月	2,845	53	52	49
2012年 11月	2,766	54	42	43

（単位：人）

「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています！

私たちは「こもれび」をとおして、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。（向陽台病院　広報委員会）

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

「こもれび」を読んでくださり、ありがとうございます。向陽台病院は毎年新しいことにチャレンジしています。今年もきっと新しいことが始まるのでは、と私自身もワクワクと期待しております。新しい情報は、「こもれび」をとおして読んでくださる皆さまにお伝えしていきます。

今年は私自身もスキルアップにつながるよう何か一つでも新しいことにチャレンジできればとあれこれ考えているところです。それでは皆さま、今年の冬も寒い日が続くかと思われますので風邪などひかれないよう注意していきましょう。

（広報委員会　水田 秀樹）